

研究協議をもっと充実させるための「研究授業の見方」

研修部 菊池

伝えたいのはこれ！（忙しい人もここだけは読んで下さい♡）

- ①具体的な「**子どもの姿**」をベースにして研究協議を行いたい！
- ②具体的な「**子どもの姿**」を知るために、**授業記録**をとってみよう！

明日はいよいよ算数ブロックの研究授業です。

研究協議では、教師の働きかけによって、下の「目指す子どもの姿」に近づいているか・実現しているかをベースに協議を行います。

- | | |
|----------|----------------------|
| 目指す子どもの姿 | ①課題意識や必要感をもって進んで学ぶ子 |
| | ②自分の思いや考えを伝え合い、学び合う子 |
| | ③自らの成長や他者と学ぶ価値を自覚する子 |

教師の働きかけによる子どもの姿をベースにより良い授業を考えていくためには、単に授業を見るだけでなく、指導案や別紙に「**教師と子どものやり取り**」を記録することが必要だと考えます。

どの先生方も、授業を通して思ったことや考えたことを指導案にメモをしたり、自分だったらこうすると代案を立てたりしていることと思います。

そこに、より説得力や具体性を出し、協議の生産性を高めるためには、教師と子どものやり取りの記録、つまり簡単な「授業記録」を取ることが大切だと考えます。

特に、教師と子どもがやり取りをする場面では、授業記録を取ることで、どのような働きかけが効果的だったかを明確にすることができます。（「〇〇さんが～と言っていたのは、先生の…っていう働きかけがあったからだよね。」「〇〇さん、はじめは困っていたのだけど、～をしたらできるようになっていたよ。」など）

また、よりより働きかけになるためにはどうすべきだったかも考えやすくなります。（「〇〇さんが～と言ったのをもう少し全体で考えさせてみても良かったよね。」「〇〇さんには、もっと～をしてあげたら良かったと思う。」など）

さらに、これは私自身の経験なのですが、「授業記録」を取ることで、教師の働きかけがいかに子どもにとって大切なものなのかを考えるきっかけになると思います。

新学習指導要領では、『主体的・対話的で深い学び』の実現に向けた授業改善が求められています。研究授業を通して、それを行っていくためには、具体的な子どもの姿をベースにした協議が鍵となります。具体的には、上で網掛けにしたような発言が充実すると良いのかなと考えています。ちょっと手間はかかるのですが、ぜひ、簡単な「授業記録」をもとに、授業をよりマクロの視点で分析し、教師である私たち自身も「主体的・対話的で深い協議」ができるようにしてみませんか？

裏面に、昨年度菊池が取った汚い授業記録を載せました。参考にならないと思いますがご覧下さい。また、授業記録用の用紙を印刷してみました、はじめから終わりまでやるのはなかなか難しいと思うので、フォーカスする場面を決めて取り組める方は取り組んでいただくと嬉しいです。

月 日 () 時間目

| 時間 | 記録 | 思ったこと・考えたこと |
|----|----|-------------|
| | | |